

令和4年度 第5回里庄町地域公共交通会議 議事録

と き 令和4年12月15日(木)

10:00~11:00

ところ 里庄町福祉会館2階 研修室

1. 開 会

- ・ 出席者 委員11名(代理出席1名)
- ・ 欠席者 委員3名

【会長挨拶】

- ・ 会長よりあいさつ

2. 議事

(1) 「里庄町地域公共交通計画(素案)」に係るパブリックコメントの結果について(報告事項)

- ・ 事務局より説明

(会長) ただ今の説明について、質問や意見はあるか。
～意見なし～

(2) 里庄町地域公共交通計画(案)について(協議事項)

- ・ 事務局より説明

(会長) 地域の人などに気軽に見ただけできるよう、概要版を作成したということで、今後はこちらを使ってPRするのだと思う。何か意見はあるか。

(委員) 里庄町の公共交通は、タクシー事業者を頼るしかない状況である。旭交通里庄と里庄タクシーは、新しく里庄町に参入しているが、利用率は増加しているのか。また、計画書の概要版をどのように活用するかということが最も重要ではないか。町内では各分館で「いきいきサロン」を開催しているため、そこへ行政が出向いて「タクシーを気軽に利用できる」とアピールすることも必要ではないか。高齢者は活字を読むのが苦手であるし、若年層も活字離れが進んでいるため、概要版を最大限に活用する仕組みが必要ではないかと思う。

(会長) タクシーの利用状況について、タクシー事業者から話していただけるとありがたい。

(委員) 新型コロナウイルスの感染拡大以降、JR里庄駅の利用者数や出張する人の減少に伴って日中のタクシー利用者は減少し、その後は横ばいの傾向である。18時以降の利用者数の減少が著しい。

(委員) 同じ状況で、利用者数に大きな変化はない。高齢になったことを理由に乗

務員と配車係が退職し、給与の支払が減ったため、赤字が縮小されたが、事業の縮小による経営改善に頼り続けることはできないため、ポストイングや営業活動によって利用者を増やすよう努めたい。未だに藤井風さんに縁がある場所を訪れる利用者が後を絶たない。10月は大阪でライブがあったため、受付ができないくらい予約入っていた。今でも1日1件の利用が週に2～3回ある。ありがたいことである。喫緊の課題は乗務員の確保で、行政の力を貸していただきたい。

(会長) もう1つの質問である「いきいきサロン」でのPRについて、事務局からお願いする。

(事務局) 今後、策定した計画が「計画倒れ」にならないような仕組みが必要だと思う。適切な広報手段を選んで計画を周知し、町がどのように計画を進めたいのか、まずその気持ちを伝えることが大切である。「いきいきサロン」等に出向いてほしいと言ってくれたが、新型コロナウイルスによる制約があるため、マスメディアで情報を届ける仕組みや、例えばタクシーの座席の背もたれ部分にチラシを設置していただくなど、高齢者の目に入る広報を考え、生きた計画になるように工夫して取り組みたい。

(会長) 先程委員から、「乗務員の確保が喫緊の課題である」と話があったが、これはどの自治体でも出ている話である。特に里庄町の場合は、タクシー事業者が撤退すると公共交通がなくなるという危機的な状況にあり、どのように乗務員を確保するのが重要である。移住・定住を促進する際、都会の人が「田舎でスローライフを楽しみたいが、仕事はあるのか」と思っているところに、「里庄町に住んでタクシードライバーをしましょう」とセットでPRできると良いのではないかと考えている。様々な取組を考えながら行うと良いと思う。

(委員) 広報が重要であるという話が出ている。子育て世帯へのタクシー助成券の配布について、プレスリリースをする際に、例えば「ママサポタクシー」といったマスコミが飛びつきやすいキャッチーな事業名をつけてはどうか。マスコミに書いてもらいやすい言葉を選んでもらいたい。タクシーの車内で様々なPRしたいが、スペースが限られるため、できる範囲で行いたい。

(事務局) キャッチーな言葉を使った広報の取組を進めたいと思う。

(会長) 確かに「ママサポタクシー」というのはすばらしいネーミングである。事務局で良い事業名を考えていただけると期待している。

(委員) 高齢者はタクシーが贅沢なものであると考える人が多い。里庄町では公共交通がタクシーで、普段の移動手段として利用できる身近な存在だと捉えてもらえるような、柔らかい伝え方が必要ではないか。ぜひ、広報活動の中で検討していただきたい。

(会長) 国土交通省でも新しい公共交通の制度を審議会でも検討している。これまでは鉄道とバスが公共交通であったが、令和4年度の審議から一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会も委員として参画しており、タクシーが公共交通に位置づけられるのは間違いないと思う。委員がおっしゃったよう

に、「里庄町の公共交通はタクシーで、高齢者にも利用していただけるように町が支援する」ということを打ち出すと良いと思う。機会があればPRすることも大切である。

(委員) 私も高齢者であるが、近所の高齢者を見ると、タクシーの予約が利用の障壁になっているように思う。スマートフォンで予約するのは難しく、出先には公衆電話がないため、施設などの電話を借りることになる。タクシー予約専用の電話を設置するなど、配慮してほしい。もう1つ、先程委員からもあったが、タクシーの移動に出費することは高齢者にとって敷居が高く、タクシー助成券を使い切ってしまった時にどうするのかとも思う。

(事務局) 予約については、タクシー事業者がフリーダイヤルを用意している。また専用電話を施設に置くなど、予約の負担を軽減する方法を事業者とともに考えたい。また、タクシー助成券を使い切った後の不安についてだが、このように委員が集まって意見を出し合う場があるため、まず1年間は新しい形のタクシー料金助成事業を実施して、効果を検証し、さらに改善に向けて議論したい。

(会長) 大型のスーパーなどに専用の電話が置いてあり、各タクシー事業者に1プッシュでつながるようになっていたのを見たことがある。そういうものができると思う。複数人で1台のタクシーに乗り合わせると1人分の運賃で済むため、自分たちで声掛けをして乗り合わせるようにして、タクシー料金助成事業を1年間使えるようにするなど、自分たちで工夫できることもあると思う。それが将来的には乗合タクシーの事業になるのかもしれないが、現在でも利用者側の工夫によって、できることがあるのではないかと思う。

(委員) 藤井風さんの効果でタクシー利用者が増えているのであれば、車内に仁科芳雄や小川郷太郎といった里庄町の偉人の資料も積んで、観光周遊を促進してはどうか。観光客が増えれば、もう少しタクシー事業者の経営が楽になるのではないか。

(会長) 観光のPRは十分行っていると思うが、その時に里庄町の公共交通はタクシーであるため、タクシーを利用していただきたいことも一緒にPRすることが大切である。様々な場で地域の公共交通をPRしつつ、地域の観光資源や特徴についてもPRすることが大切である。

(委員) 元気な高齢者が集まると、「ここへ来るのにタクシー助成券を3枚も使った」などといった高齢者タクシー料金助成事業の話が出る。私が高齢者に説明するよりも、役場から来て説明していただくと説得力があると思う。

(会長) ぜひそのような機会を作って、役場から出向いてPRしていただきたい。大体のご意見を伺い、今日が最終回ということでこれからこの計画の採決を取りたい。事務局から提示があった里庄町地域公共交通計画(案)について、特に修正点はないと思うが、承認いただける方は挙手をお願いしたい。

～挙手多数～

(会長) 出席委員の半数を超える挙手があったため、本件については承認したことにする。本日の議事は以上となるが、皆様から何かあるか。

(委員) 地域公共交通会議で議論したタクシー料金助成事業の見直しは、非常に大きな新規事業だと思っている。ただ、それに水を差さなければ良いと思うのは、タクシー運賃の値上げである。先日から運賃値上げの審査が始まった。審査から運賃の変更まで半年近くかかると聞いたことがあるため、ゴールデンウィークくらいからタクシーが値上げになるのではないかと思う。タクシー料金助成事業を拡充したとしても、この値上げによって利用者のタクシーを利用する気がなくなるのではないかと危惧している。

(会長) 今日は最終回であるため、最後に町長からお願いしたい。

(副会長) 渡邊会長をはじめ委員の皆様にお礼を申し上げます。昨年の6月29日に第1回の会議を開催し、今回が最終の5回目となった。様々な立場の方から貴重なご意見をいただき、また昨年度実施した住民アンケート調査の結果を参考にしながら里庄町地域公共交通計画ができた。昨日町の人口を確認したが、昨年の10月末から今年の10月末までの1年間で人口が38人減少している。出生64人に対し死亡128人で64人の自然減、転入368人に対し転出342人で26人の社会増であった。現在75歳以上の人口が1,950から1,960人くらいであるが、令和10年頃には2,200人を超えて、総人口に占める割合は20%になると予想される。今後、人口減少にできるだけ歯止めをかけて、高齢者の生活を守るためには、子育てしやすいまちづくり、高齢者が暮らしやすいまちづくりを進める必要がある。そのためには、暮らしを支え、地域に根差した地域公共交通政策が大変重要となる。里庄町では来年度以降、この里庄町地域公共交通計画に基づく具体的な取組を進める中で、PDCAサイクルに従って効果の検証を行い、まちの実態に即した事業を進めたいと考えている。今後も委員の皆様には、先程のキャッチーなコピーをご提案いただく等、様々なところでお世話になると思うが、今後ともよろしく願います。

3. その他

(事務局) 今回の会議において里庄町地域公共交通計画案を承認いただいたため、今年度の地域公共交通会議は今回で終了となる。今後も施策の効果検証を行い、より良い公共交通施策に向けた見直しを行うPDCAサイクルを実施していきたいと考えており、今年度ほどの頻度ではないが、来年度以降も会議の開催を予定している。その際には改めてご提言をいただけたらと思う。引き続きよろしく願います。

4. 閉 会

以上